

## 第41回「桃陰文化フォーラム」

### < 美と芸術のジレンマ >

#### ギリシア神話～「千と千尋の神隠し」に題材をもとめて

**日時** 令和元年 11月16日(土) 午前10時～

**会場** 天王寺高校 多目的ホール(北館3F)

講師 / <sup>うえだ たかひろ</sup> 上田 高弘先生(高32期)



「きれいな薔薇には棘〔とげ〕がある」と言います。それを聞いて、「だったら触れまい」と誓うのは、ただの教訓化。「棘があっても触れたい」葛藤がジレンマであり、ひょっとしたら美そして文学はそこにひとつの起源を發します。具体的な事例を私じしんの〈遍歴〉も辿りながらお話しします。

今回の文化フォーラムは、立命館大学文学部教授の上田先生をお招きします。天高生としてどのような学校生活を送られたのか、現在のご活躍の裏でどのようなご経験をされたのか。上田先生からの貴重なお話を、この機会にお聞きになりませんか。多くの方のご参加をお待ちしています。

**聴講料** 無料  
**申込方法** 電話、FAX、Eメール (お申し込みは下記のいずれかでお願ひします)  
■電話 06-6627-4386 (同窓会事務局)  
■FAX 06-6626-4467  
■Eメール office@touin.org

大阪府立天王寺高等学校 「桃陰文化フォーラム」事務局  
545-0005 大阪市阿倍野区三好町2-4-23

**申込締切** 11月13日(水)

\* 本校には駐車場がございませんので、お車での来校はご遠慮ください。

#### < 講師紹介 >

上田 高弘 (うえだ たかひろ)  
1961 (昭和36) 年8月4日、大阪市東住吉区生まれ、58歳

##### 【学歴】

大阪市立南田辺小学校、同 田辺中学校に通ったのち、  
1977 (昭和52) 年4月、大阪府立天王寺高等学校入学 (高32期)  
1年間の浪人生活を経て、  
1981 (昭和56) 年4月、東京造形大学 美術学部絵画I類入学  
1982 (昭和57) 年4月、東京芸術大学 美術学部芸術学科入学  
1986 (昭和61) 年4月、同 大学院 美術研究科 修士課程入学  
1991 (平成3) 年3月、同 博士課程 満期退学

##### 【職歴】

1986 (昭和61) 年4月、代々木ゼミナール講師 (～1992年3月)  
1992 (平成4) 年4月、東北芸術工科大学美術学部 専任講師、同 助教授 (1997年～)  
1998 (平成10) 年4月、立命館大学文学部 助教授、同 教授 (2005年～)

研究業績として、評論集『モダニストの物言い』(美学出版、2006)、画集〔編著〕『酒匂謙の絵画』(美学出版、2019)、翻訳〔共訳〕『グリーンバーグ批評選集』(勁草書房、2005) など。2015年からは作品制作／発表も再開し(下の写真は、東京で展覧した自作の前で撮影)、現在に至る。

\* \* \*

幼少期から絵を描くのが好きで、天高でも美術部に所属。画家になる夢を抱くも、3年に上がる頃はその道に進むことに反対する両親との間で深い確執を抱えることになりました。

結果からいうと、私は頑固に意思を貫きとおして美大／芸大に進学したものの、副次的なものとして触れたはずの美学や美術史の学問に魅了されて研究の道に入り、いまは総合私大の文学部で音楽や文学もふくむ芸術関連のトピックスを講じる日々を送っています。

フォーラムでも、まずは音楽が深く関わるギリシア神話のあるエピソードに、〈美〉をめぐる典型的なジレンマを見出します。〈芸術〉とはこのとき、そのジレンマ解決の知恵の上に立つ制度である側面と、制度を不断に打ち破ろうとする側面の、両方を有することが理解されるでしょう。

ところで、皆さんもきっとご存知のアニメ「千と千尋の神隠し」が、なぜこの文脈で、その中のある感動的な場面で、神話のエピソードにも負けない、〈芸術〉の秘密のひとつが描かれるからです。それはどの場面なのか、想像もしたうえで会場に足をお運びいただければ幸甚です。



「桃陰文化フォーラム」とは、天高教育支援の一環として、各界で活躍する卒業生のネットワークを活用し、日頃授業ではなかなか学ぶことが難しい分野についてすぐれた講師をお招きし、講演やワークショップを通じて生徒諸君が広く世界に眼を開き、将来の自己実現・進路選択に役立てることを期すと同時に、地域に開かれた学校をめざすべく広く一般の方にも呼びかけ、参加していただくというものです。